金融行政のAIトランスフォーメーション（AX）

秘書課情報化統括室　室長　高梨 佑太
業務情報化戦略調整官　城本 葉子
課長補佐　大前 良太

金融を取り巻く環境や行政課題が急速に変化する中においても、金融庁は、変化の先を見通し、新たな課題に機動的に対応するとともに、施策を着実に実行していくことが求められています。5年後、10年後、20年後も質の高い金融行政を提供し続けるために、組織と職員がともに成長し、自らを変革し続けることが重要です。

こうした中、これまでにないペースで進展する生成AIをはじめとするデジタル技術を積極的に活用することによって、政策立案やモニタリングの高度化、市場監視の強化等、金融行政の質を一段と高い水準へ引き上げていく可能性を有しています。

金融庁では、こうした技術を積極的に取り入れることによって、行政サービスの質の向上と職員一人ひとりの能力を最大限に発揮することを目指しています。このような考えに基づき、2026事務年度から、**金融行政のAIトランスフォーメーション（AX）**を推進します。

AIトランスフォーメーション（AX）とは、単に生成AIを導入することではなく、AI活用を前提とした業務プロセスの改善やこれらの取組を踏まえながら、人材育成・資源配分の見直しも含め仕事への取り組み方を抜本的に変容させる取組です。

2026事務年度は金融行政におけるAIトランスフォーメーション（AX）の実現に向けた取組を本格的に推進する重要な一年と位置付けています。この考え方の下、次に掲げる3つの施策を重点的に推進していくことで、金融行政AXの実現を着実に進めていきます。

（1）生成AIの積極的な利活用による行政事務の効率化

これまでも活用してきた生成AIツールやRAG（検索拡張生成）等の技術をさらに積極的に利活用することにより、資料探索や文案作成等の日常業務の効率化を加速することで、職員がより高い付加価値を生み出す業務に注力できる環境を整備する。

（2）金融行政に係るナレッジ活用による知識継承

過去の政策検討過程や内外の様々な政策提言に係る文書等、庁内に蓄積されたノウハウを、職員が必要な時に活用できるようにする。

また、ベテラン検査官等の知見や経験をAI統括検査官により組織の知識資産として体系化・共有することで、若手職員への効果的な知識継承を図るとともに人材育成を推進する。

（3）AIエージェントの活用を前提とした業務プロセス改革

外部情報の分析や内部事務の自動化等、これまで複数の職員が時間をかけて担ってきた業務について、AIによる支援・代替を見据えた取組を進める。その際、既存業務を単純にAIへ置き換えるのではなく、人とAIがそれぞれの強みを発揮することができるよう、業務プロセス全体の再設計も進める。

以上の施策を進めるにあたっては、AIをより効果的に利活用するための基盤の整備と、AIの活用に伴い、想定されるリスクへの適切な対応が不可欠です。

このため、AI利活用基盤の整備とリスクへの適切な対応として、今後、長期的な視点をもって、以下のような取組を進めていきます。

・AI-Readyなデータ管理

AIの回答精度は、AIに投入するデータの品質に大きく依存することから、文書のバージョン、所管部署、適用時点等の属性情報を明確化するとともに、見出しや本文の構成を整備する等、文書自体の品質の向上を図ることで、AIが正確に理解できる状態へデータを整備する。

・適切なアクセスコントロール

AIが利用できるデータと操作範囲を必要最小限に限定することで、職員本人の権限を越えてAIが情報にアクセスしたり、処理を実行しない仕組みを整える。また、重要な処理に対しては、人による確認を必ず組み込む。

・行政文書の適切な管理

AIの回答や生成した成果物について、根拠となったデータや生成過程を確認できることが重要。AIを利用して作成した行政文書についても、適切に記録・管理することによって、トレーサビリティを確保する。

こうしたAI利活用基盤の整備と、想定されるリスクへの対応を漸次進めながら、2026事務年度においては、例えば、以下のユースケースに取り組みます。

・金融庁の過去の政策検討過程や内外の様々な政策提言に係る文書等を活用した政策立案から日常的な事務処理まで幅広い業務へのAIの利用を通じ、業務プロセスの改善を推進する。

・金融機関や金融サービス利用者等から取得した大量の文書やデータを迅速に処理できるAI・デジタル技術を、モニタリング等において活用する。こうした分析結果を用いて、金融機関の業務の適切性に係る課題や、財務の健全性上のリスク等を把握する。また、その成果を財務局との連携にも活用し、地域金融機関のモニタリング等にも活かしていく。

・市場監視の業務プロセス全体の中で、デジタルフォレンジックをはじめとする、AI・デジタル技術の活用を進めていく。これらの技術により効率化が期待できる領域を洗い出し、その活用に向けた人材育成や資源配分の最適化についても検討する。

このようなユースケースを通じて実証することで、得られた知見を他の業務に横展開するとともに、データ整備やデータガバナンスルール、そして人材育成へ還元します。その上で、AIの利活用範囲を段階的に広げていくことや庁内のコミュニティ醸成により、全庁的な業務変革へつなげます。目指すのは、人とAIがそれぞれの強みを発揮することで、国民への貢献のために、常に進化し続ける金融行政の実現です。

金融庁は、こうした取組を推進するため、チーフAIオフィサーに着任した金融庁長官の下に「金融庁AIトランスフォーメーション会議」を設置し、同会議がAXに向けた取組を統括し、全庁的に推進することで、金融行政のさらなる高度化を進めていきます。



（写真：生成AIツールの活用方法について相談するオフィスアワーの様子）